

様式1(主な取組)

活動指標名	養成数				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	1411	1482	1548	1579	1557	1400	100.0%	3,047	順調	国・県指定無形文化財（芸能、工芸）の伝承者を養成するために研修等の経費を一部を補助することにより支援した。
活動指標名					R3年度					
実績値										進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 計画値以上の1,557人を養成することができたことから進捗は順調と判断。伝承者の養成には長い年月を要するため、単年度の実施がすぐに新たな保持者の認定に結び付くものではない。これまで伝承者養成・技術錬磨事業を継続して実施したことにより、国・県指定無形文化財（芸能、工芸）の保存につながっている。
活動指標名					R3年度					
実績値										
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案						反映状況				
・「組踊」「琉球舞踊」等の研修生が多い伝承者養成事業については、感染症対策を徹底し、コロナ禍でもより効果的な研修が実施できるよう保存会事務局と連絡・調整をしながら、その内容や方法等について具体的・計画的に検討していく。 ・工芸技術は、工芸の種別ごとに抱える課題が異なるため、課題解消に向けての方法や内容等について保存会事務局と連絡・調整をしながら具体的・計画的に検証していく。						・「組踊」において、延べ110人の伝承者研修をコロナ禍で対応可能な保持者DVD研修に変更して実施した。約400人の伝承者を抱える「琉球舞踊」は、保持者の記録集・DVDを作成し、これを活用した事業を行った。これらの経験から、今後感染症の拡大等がおきても柔軟な対応が可能となった。 ・工芸技術について、県は保持団体・保存会と状況を確認しながら助言・指導を行う。保持団体・保存会は県や国の助言・指導に基づき、事業計画を作成・実施する。				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・「組踊」「琉球舞踊」等の伝承者養成事業において、研修生の人数が過大であるため、全員で効果的な研修を実施するには、研修会場や稽古場、発表会の持ち方等に課題がある。

・工芸技術の伝承者養成事業等は、限られた予算で、伝承者の養成が確実に行われている。

○外部環境の変化

・無形文化財(芸能)は、生活様式や言語状況の変化等により、常に消滅・変容の危機にさらされている。

・工芸技術は、現状を維持しているものの、離島地域・北部地域での高齢化、過疎化が伝承者養成事業の実施に影響を及ぼす可能性が高まっており、対策が必要である。

・高齢者が多く参加する伝承者養成事業において、感染症対策は大前提である。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・「組踊」「琉球舞踊」等においては効果的な研修の見直し・検討に向け、具体的な見直し案について、保存会と意見を交換・調整しながら支援していく。

・工芸技術は、伝承者の養成について保存会・保持団体と意見交換・調整しながら支援していく。

4 取組の改善案 (Action)

・「組踊」「琉球舞踊」等の研修生が多い伝承者養成事業については、感染症対策を徹底し、より効果的な研修が実施できるよう保存会事務局と連絡・調整をしながら、その内容や方法等について具体的・計画的に検討していく。

・工芸技術は、工芸の種別ごとに抱える課題が異なるため、課題解消に向けての方法や内容等について保存会事務局と連絡・調整をしながら具体的・計画的に検証していく。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-イ	文化の担い手の育成	施策	① 伝統文化の後継者育成・確保
			施策の小項目名	○多様な機会を通じて技能習得ができる環境の構築
主な取組	伝統行事保存継承事業			
対応する主な課題	②伝統芸能や伝統工芸の後継者となる伝承者養成は一朝一夕にできるものではなく、長年にわたる技術や技芸の修練と研鑽が必要であり、長期的・継続的な取組が求められる。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
九州地区民俗芸能大会への派遣を行い、無形民俗文化財の保存継承を支援する。また、市町村等が行う民俗文化財調査や市町村・所有者・保存解凍が行う映像・記録作成、修理・新調、防災等の事業に対し、経費の一部補助や国庫補助事業に関する情報提供及び事業実施において支援する。		2件				
実施主体		保存会等				
担当部課【連絡先】		教育庁文化財課 【098-866-2731】				
		伝統行事の保存・伝承に向けた取組支援				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名 県単補助事業（九州地区民俗芸能大会派遣）							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	
県単等	補助	500	500	500	392	0	300	県単等	OR3年度： 11月に鹿児島県で開催された九州地区民俗芸能大会へ1団体の出演と記録集作成を支援した（コロナ禍で映像出演となり、県で経費の一部補助はなし）。 OR4年度： 11月に沖縄県で開催される九州地区民俗芸能大会へ2団体を派遣し、大会での進行や記録集作成を支援する（県で経費の一部補助）。
予算事業名 国庫補助金県裏負担分（民俗文化財伝承・活用等事業）							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	
県単等	補助			345	1,706	840	0	県単等	OR3年度： 重要無形民俗文化財塩屋湾のウンガミで使用する祭場（田港ヌドウンチ）の建て替え、道具類の新調を支援した。 OR4年度： R4年度に予定されている活動計画はなし。

様式1(主な取組)

活動指標名	保存継承支援件数				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	2件	1件	3件	3件	4件	2件	100.0%	2,335	順調	令和3年11月開催の第62回九州地区民俗芸能大会(鹿児島)への宇玉城獅子舞保存会(南城市)の映像出演・記録作成を支援した。国指定「塩屋湾のウングミ」祭祀施設・用具類の修理方針等の文化庁との調整や実績・修理報告書の作成を支援した。また、県指定有形民俗文化財2件の修理を支援した。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
										計画値2件に対し、令和3年度実績値は4件の支援を行った。九州地区民俗芸能大会は新型コロナウイルス感染症の影響により、映像出演となったが出演団体の演目や芸態の記録作成を支援した。国指定の塩屋湾のウングミは修理方針等についての文化庁との調整や報告書等作成を支援した。県指定有形民俗文化財2件の茅葺き屋根修理について県補助金を受けての実施を支援した。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度 of 取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> 市町村文化財保護行政担当研修会等において、九州地区民俗芸能大会については映像資料や記録集を用いて、国庫補助事業については過去の取組事例の紹介や対象となる事業について説明を行い、これらの事業を活用するメリット等を周知する。 令和4年度の九州地区民俗芸能大会(沖縄大会)に向けて、派遣団体募集及び決定を今年度内に実施する。 						<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響により、市町村文化財保護担当者研修会が開催できなかったため、資料には説明を掲載したが映像資料や記録集を用いた説明は実施できなかった。 新型コロナウイルス感染症の影響により行事の中止や民俗芸能の練習ができないなどの状況が見られたため、次年度の九州地区民俗芸能大会(沖縄大会)への派遣団体募集は実施できなかった。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・九州地区民俗芸能大会への応募や国庫補助事業等の活用に関して、市町村担当者への周知方法を改善する必要がある。
- ・保存会等が行う国庫補助金・県補助金事業については、事業開始前から事業実施中も保存会等との調整をより綿密に行う必要がある。

○外部環境の変化

- ・少子高齢化や過疎化など影響で地域の伝統行事や民俗芸能の担い手が減少したり、行事次第や芸能演目の簡素化などが見られる地域もある。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、伝統行事の中止や一部実施、民俗芸能の練習ができないなどの状況が見られた。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・九州地区民俗芸能大会への派遣や国庫補助事業等の取り組み事例を紹介し、地域の伝統行事や芸能の保存継承に対しての同事業の有用性について、市町村担当者へ周知する必要がある。
- ・九州地区民俗芸能大会へ派遣する団体が所在する市町村担当者にも参加を促し、民俗芸能の公演を直に見る機会を作り、大会参加が各地域の民俗芸能の保存継承の意欲向上に寄与できることを理解してもらう必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・市町村文化財保護行政担当研修会等において、九州地区民俗芸能については映像資料や記録集を用いて、国庫補助事業等については過去の取組事例の紹介や対象となる事業について説明を行い、これらの事業を活用する有用性等を周知する。
- ・令和4年度の九州地区民俗芸能大会(沖縄大会)の開催に向けて派遣団体募集を早め実施し、各市町村文化財保護行政担当課を通して各地域の民俗芸能保存会等へ大会開催について周知する。

様式1(主な取組)

活動指標名	文化庁等機会提供事業鑑賞児童生徒数				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	12,954人	11,881人	20,034人	14,870人	20,408人	13,000人	100.0%	474	順調	<p>文化庁、県、市町村教育委員会及び学校等との共催により鑑賞機会提供事業を実施した。内容は、ミュージカル、オーケストラ、児童劇、音楽などの鑑賞やワークショップ・共演を実施した。また、離島・へき地の児童生徒に芸術鑑賞提供するため、粟国村で公演(木管五重奏)実施した。</p> <p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>各教育委員会との連携を図り、本事業を周知した。この取組を継続したことによって、応募校の増加につながった。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった公演もあったが、感染対策を講じて多くの公演が実施され、鑑賞児童生徒数は、20,408人と計画値を上回ることができた。進捗状況は順調である。</p>
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度 of 取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> 行政説明会や市町村教育委員会担当者への事業の周知を継続し、併せて各学校への周知や応募の呼びかけを実施する。 応募数の少ない市町村には応募を再度呼びかける。 過去、県内での実施実績のある芸術団体・個人に働きかけ、新たな学校が応募できるように支援する。 						<ul style="list-style-type: none"> 各市町村教育委員会との連携を図り、本事業について周知を図ることができ、応募数増加につながった。 新たな市町村からの応募があり、増加につながった。 新たな学校からの応募があり、増加につながった。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・本県は、学力向上対策が最重要課題であり、このため各学校とも授業時数の確保等が優先される傾向が見られる。
- ・これまでの行政説明会や小・中学校校長研修会等で事業の周知は進んでいるが、市町村によって応募学校の差が見られる。

○外部環境の変化

- ・他県に比べても離島が多いことなどから、準備に要する時間や移動時間がかかるため開催回数に限られ、芸術文化に触れる機会がまだまだ足りない。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため公演中止の可能性がある。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・行政説明会や市町村教育委員会担当者への事業の周知を継続し、併せて各学校への周知や応募の呼びかけを実施する。
- ・応募数の少ない市町村には応募を再度呼びかける。
- ・過去、県内での実施実績のある芸術団体・個人に働きかけ、新たな学校が応募できるように支援する。

4 取組の改善案 (Action)

- ・行政説明会や市町村教育委員会担当者への事業の周知を継続し、併せて各学校への周知や応募の呼びかけを実施する。
- ・応募数の少ない市町村には応募を再度呼びかける。
- ・過去、県内での実施実績のある芸術団体・個人に働きかけ、新たな学校が応募できるように支援する。

様式1(主な取組)

活動指標名	県外派遣数				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	923人	1,078人	1,014人	103人	742	700人	100.0%	14,167	概ね順調	文化活動の発表の場を確保するとともに各分野の技術向上を図るため、県中学校文化連盟及び県高等学校文化連盟の強化費、大会運営費、派遣費に関する補助を行った。コロナ禍で中止やネット開催等となる大会もあったが、派遣人数は目標値を上回った。
活動指標名	参加者数				R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	11,788人	12,199人	12,251人	7,057人	6,815人	12,000人	56.8%			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
										県外大会や県内大会への離島生徒の大会派遣費の補助について継続的な支援を行った。コロナ禍で中止やネット開催等となる大会もあったが、県外派遣数は計画値を上回った。県中学校総合文化祭や県高等学校総合文化祭は感染症対策を講じて、開催することができた。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中文連においても高文連同様、共催大会を派遣補助対象大会として拡大を図り、保護者経済的な負担を軽減するために引き続き支援を行う。 ・ 県高校総合文化祭等への参加者数を増やすために高文連と連携し、吹奏楽部門等の運搬費補助について継続して支援を行う。 ・ 中文連、高文連に対して、新型コロナウイルス感染症に係るイベント等実施ガイドライン等の周知、支援を行う。 						<ul style="list-style-type: none"> ・ 中文連においても高文連同様、共催大会を派遣補助対象大会として拡大を図り、保護者経済的な負担を軽減するために支援を行った。 ・ 県高校総合文化祭等への参加者数を増やすために高文連と連携し、吹奏楽部門等の運搬費補助について継続して支援を行った。 ・ 中文連、高文連に対して、新型コロナウイルス感染症に係るイベント等実施ガイドライン等の周知、支援を行い、感染対策を講じ大会開催につなげた。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・ 離島生徒の参加については、県内大会そして県外大会と航空機や船等の利用が必須のため保護者の経済的負担が大きい。
- ・ 中文連及び高文連に専門部がない様々な分野に人気が集まり、小グループで楽しみながら活動している。

○外部環境の変化

- ・ 新型コロナウイルス感染症状況によっては、大会の中止、規模縮小等の可能性がある。
- ・ 燃料費高騰による航空運賃費の値上げが想定される。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・ 離島生徒の大会への参加等については、派遣生徒の保護者の経済的な負担が大きいことや吹奏楽部門等については楽器運搬費が保護者の経済的負担となることから、引き続き支援を行う必要がある。
- ・ 中文連においても高文連同様、共催大会の拡充を行い、派遣補助対象大会として、支援拡大を図り、多くの生徒に発表の場を提供して活動の活発化につなげる。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策を踏まえて、大会開催につなげる。

4 取組の改善案 (Action)

- ・ 中文連において共催大会を拡充し、派遣補助対象大会として拡大を図り、離島保護者経済的な負担を軽減するために引き続き支援を行う。
- ・ 県高校総合文化祭等への参加者数を増やすために文化連盟と連携し、吹奏楽部門等の運搬費補助について継続して支援を行う。
- ・ 中文連、高文連に対して、新型コロナウイルス感染症に係るイベント等実施ガイドライン等の周知、支援を行い、大会開催につなげる。